C－59 作業被服の構成と地域性の研究（第了報） 刺しを中心として

県立米沢女短大 徳永幾久

目的 前報にて県内の作業衣服形態区画が藩政区画や木綿産地などの地域的要素にかかわりあいのあることをのべ，地域のもつ特性について究明を試みたが，今般は，刺し技術に表現される地域性について考究するのを目的として，作業衣などの補強になされる刺しの分布や種類及び伝達などを調査したので，曲線刺しを中心に考察する。

方法 県内小中高教員及び婦人会有志に依頼したアンケートから得た回答資料の集計（回収数２５９８；同人に２回実施 (1)対象者の記憶による自記式調査，(2)演者の蒐集せる技法を列記しての確認調査）及び各地老人よりの聴取と実物資料による。

結果 1)山形県は地誌区分と藩政区分が重りあい特色を示すが，刺しにもその影響をみた。（庄内の隠れ刺しなど） 2)刺しの分布は縫い刺しと目おとし刺しに分けると庄内，最上と置賜に分けられ村山は埋没する。庄内の直線，曲線の縫い刺しは，防風と作業時の型くづれの補強であり置賜の目おとし刺しは防寒と摩擦のための補強技術とみる。 3)布目をふさぐこぎん刺しも庄内に交流しているが浜風への対応とみる。 4)庄内に足袋刺しの歌が育ったのは，庄内平野をひかえての農家主婦を育てるためで，躾と嫁入りの評価技術として母親が教えた。衣類を中心として高度な技術がみられた。置賜は衣服の補綴 保温の衣服管理技術として受けとめたので，おしめ，敷布，風呂手拭などにとどまった。 5)庄内の曲線刺しは最上川をのぼって沿岸に分布したが，置賜，最上の紅花集散地の旧家の刺しには地域的な特色が加えられていた。 6)各地に散在する刺しの中には，師範学校の刺し教材が実物として生かされていた。